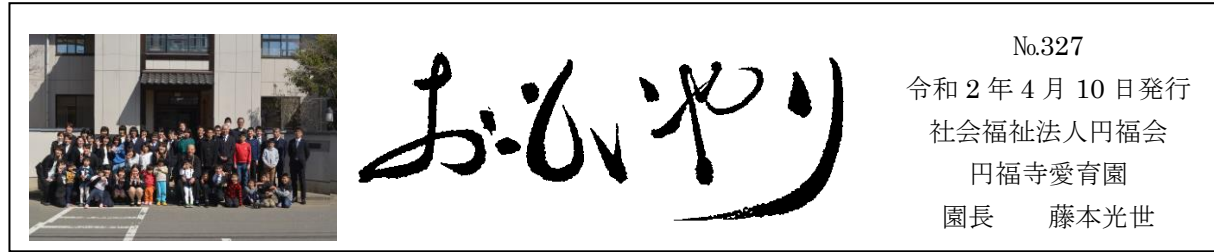


3人が愛育園を巣立ちました。ご卒園、おめでとうございます。



卒園式

園長 藤本光世

新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度の卒園式は園内行事にいたしました。それにもかかわらず、例年のように美味しいお弁当をご寄贈いただいた「かつ玄」の滝澤功様には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

お客さまはお呼びできないけれど、いつものように心を込めて準備をして卒園生を送り出そうねと子どもたちに話しました。会場は例年と同じ体育館です。周囲には紅白幕が張られ、ステージには大きな背景が飾られ、上にはお習字を習っているRさんが筆で一文字一文字大きく書いてくれた「ご卒園おめでとう」がまごころの子どもたちの造花できれいに縁どられて飾られていました。入口の壁面には花びらが美しく貼られました。玄関には「令和元年度卒園式」と看板が立てられました。すべてはお客さまがおいでになる時と同じでした。

一年間のスライド上映から始まりました。礼拝があり、国歌斉唱、園歌斉唱を子どものピアノ伴奏と指揮で歌います。ピアノ伴奏はピアノを習っている中1のSさん、指揮は小6のR君。上手でした。次いで、私が卒園生を一人一人紹介して、それぞれが困難を乗り越えて卒園できたことを称えました。円福寺愛育園で生活することを通して子どもたちは幸せになります。卒園生のように、先生方の指導に従って毎日一生懸命に過ごして卒園しようねと、在園児に語り掛けました。最後に卒園しても毎月末に担当の先生に手紙で近況報告しようねとお願いしました。それが私たちのアフターケアです。

記念品を渡して、二人のお別れの言葉になりました。先生や愛育園に対する感謝の言葉が述べられました。いろいろなことが思い出されて涙が溢れました。担当の先生から激励の言葉がありました。先生も泣いていました。

そのあと歌の発表がありました。「さくら散る頃」「変わらないもの」を歌いながらみんな泣いていました。気が付いたら始まってから二時間半が経っていました。

愛育園の卒園式は学校の卒業式とは全く違います。育てていただいた「家」から出る式です。お別れです。育てていただいた期間は長く、先生とは人間関係と絆ができています。子どもたち同士の間人間関係もできています。だから、別れに際して、みんな泣いてしまうのです。

(令和2年4月10日発行 月刊「円福」475号付録)

実は、もう一人の児童の卒園式を、ホーム長二人と三人で、前日に理事長室で挙行了しました。この小さな卒園式も、感動のひと時でした。担当が「私はあなたに何度も裏切られたり暴言を吐かたりしたけれど、あなたの心が好きだったからここまで指導できた」と泣きながら話すのを聞き、彼も泣き、私たちも泣きました。彼も職員の指導に従ってよく頑張りました。その努力を称えました。指導が厳しかっただけに、それを理解して頑張った彼は立派でした。彼が幸せになる事を祈っています。



今年の卒園生3人のうち、2人は進学です。進学率は67%です。進学率がこんなにも高い年は初めてです。愛育園の養育力が高まっていると感じています。

それを確認しようと、過去12年間の進学率を調べていました。驚きました。高校を卒業して大学等に進学した児童がほとんどいなかったのです。

令和2年3月に示された長野県社会的養育推進計画(素案)に高校卒業時に代替養育を受けていた子供の大学等進学率が掲載されています。それによりますと、平成30年度までの5年間の全県進学率の平均値が75.4%であるのに対して、児童養護施設、里親、ファミリーホームの出身者のそれは23.1%なのです(49p)。なんと低いのでしょうか。ところが、愛育園のそれは11.1%でさらに低いのです。

大学等進学率は養育のレベルを表しています。「勉強しろ」と子どもを強制しても、子どもは勉強しません。勉強は、子どもの心のレベルが上がってこそできるのです。心のレベルが上がるとは、お掃除を自分から丁寧にするとか、あいさつをするとか、遅刻をしないと、そのようなことが自然とできることなのです。すると、自然と進学率は上がります。

実は、児童養護施設の子の大学等進学率が低いのは、児童養護施設で育った子の心のレベルが低いからなのです。決して経済的な問題ではありません。

児童養護施設では、どうしても心のレベルが低くなってしまいます。

3月に少年画報社から永田晃一著の「児童養護施設で育った俺がマンガ家になるまでの(おおよそ)8760日①」が贈られてきました。読んでみて、昭和60年ころの児童養護施設の様子を良く表していて、引き込まれました。その中に描かれた「施設カースト」こそ、大舎制の施設の最大の欠点です。それは子どもたちから安心安全な生活を奪います。職員をもカーストに組み込みます。カーストが支配する施設はアノミー状態になります。子どもたちはカーストの中で生きのびることに精一杯で、勉強どころではなくなってしまいます。心もひねくれます。カーストで育った子は、大きくなってカーストの頂点に立ち、カーストは繰り返されるのです。子どもたちはどんどんと悪くなります。心ある職員は絶望して、職場を離れます。悪循環です。

平成20年に私がこの仕事に入ってから12年間の高校卒業生の進路を見ました。平成25年度ま

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

で卒園した児童は、施設カーストの頂点にいた児童でした。進学児童なし、17人全員が就職でした。26年から30年の間に卒園した児童は、頂点には立たなかったものの、カーストの底辺で虐げられた子どもたちでした。今年の卒園生はカーストの影響をあまり受けなかった初めての児童でした。実は、3名のうち高校を卒業できたのは1名だけでした。他の2名はいろいろなことがあって高卒認定あるいは卒業せずに卒園したのです。中退しても卒園できたことはすごいことなのです。高校卒業児童の進学率は100%でした。

上記計画では、子どもの自立支援の評価基準としてR6年度に54%に、R11年度には全県の進学率と同水準にするとしています。愛育園は、今年全県の水準を超えました。これからもきっと今年の水準を維持するでしょう。

上記漫画のあとがきに「人は幸せになる権利がある」、どうか幸せになる権利を放棄しないでください、と書かれています。幸せになる権利の保障こそ、代替養育による「児童の最善の利益」ではないでしょうか。学力をつけ進学することはその一歩となるはずです。

卒園式

主任保育士 石崎早織

今年度の卒園式はコロナウイルスの影響もあり、来賓の方は呼ばずに卒園式を行いました。卒園式自体できるかどうか不安もありましたが、みんなで素晴らしい卒園式になるように準備をし、当日はとても良い式を行うことができました。

今年度の卒園生は3名いました。その中の一人が、私が5年間担当を受け持った児童でした。彼女は中学1年生に愛育園に来て約5年間生活を共にしてきました。

5年間を振り返ると本当にさまざまな出来事がありました。辛かったこと、楽しかったこと、一緒に乗り越えたこと、など挙げればきりがなくらいですが、それだけ思いが詰まった5年間を一緒に過ごすことができました。

またこの一年彼女は自分の進路を叶えるべくアルバイトを二つ掛け持ちして一生懸命お金を貯めていました。その努力の甲斐もあり、専門学校に進学が決まり、今は一人暮らしもスタートしています。私が今まで担当していた児童の中で進学に進んだ児童が居なかったのも、生活面の心配はもちろんですが、金銭面の心配がかなり大きくありました。それでも進学を選び、朝から晩までアルバイトに励んだ彼女はとっっても頑張ったと思います。

また卒園生を気持ちよく送り出してあげたいという子どもたちが会場準備から、歌の練習などできることを積極的にやってくれ、その姿を見ていたら心がとても温かくなりました。子どもたちの中には自分もいつかみんなに見送られながら卒園したい！と思ってくれる子どもも多く、子どもたちにとって卒園式は特別な物になっています。また卒園式を迎えると、高校2年生は「次は自分の番だ」「一年間を大切に過ごさないといけない」ということも話してくれました。

(令和2年4月10日発行 月刊「円福」475号付録)

私は自分の担当の子が無事卒園を迎えられたことにとってもほっとして、少し肩の荷が下りたような気持ちになっていますが、もう目の前には新年度スタートが待っています。

来年度はどんな1年になるか、子どもたちはどんな風に成長していくのかを楽しみに頑張りたいと思います。来年度もよろしくお願い致します。

令和1年度 卒園式



あおぞらホーム長 富沢正樹

今年は、あおぞらホームから2名、まごころホームから1名、計3名の子どもたちが卒園していきました。

男子2人は、それぞれ4年生大学、自衛隊。女子1人は専門学校。と立派に進路を決めて卒園することが出来ました。

今年の卒園式は、コロナウイルスの影響から来賓の方の招待を取りやめ、園内児童、職員での式となりました。

ですが、例年と変わらず、卒園生を気持ち良く送り出す為、在園児童のみなんで、一生懸命準備を進めて、素晴らしい式になりました。ステージバックの装飾、紅白幕の取り付けなど、会場作りは大変な作業がたくさんありますが、子ども達の方から率先してお手伝いをしてくれて、卒園式の前日、前々日に何時間でも作業してくれる姿は、毎年の光景になっており、子ども達の心が育っている事を実感します。

私は、自衛隊に行ったS君の担当職員でした。S君は中学2年の終わりから愛育園に来て4年間、園で生活しました。担当になったのは今年1年だけでしたが、S君は何かと私のそばにいる事が多く、4年間非常に密度の濃い時間を過ごしてきたように思います。S君は、私を頼りにする割に、問題起こして裏切ったり、裏切ったりする割に頼りにしてきたり、そういう繰り返しでしたが、そうやって常に近い所で一緒に過ごしてきました。

S君は自分で自分の首を絞めてしまうような行動の多い子で、特にこの1年間は試練の連続で、常に崖っぷち状態でした。自衛隊への進路が決まって園を出ていけた結果は、本当にすごい事だと感じています。何とかS君の将来を拓かせたいと、私を鬼にして接してきた時もあります。私が一番うれしいのは、S君がそれについてきてくれたことです。そんな頑張るS君に、私も結果出してあげたいという気持ちが膨らんで、いろんな道を模索して、必死に考えました。自衛隊への進路を掴んで、堂々と卒園していった。という結果につながり、本当に感慨深いです。

今、園で生活している子ども達も、いずれ卒園の時を迎えます。子ども達との関わりの中から、自立の為の力や将来の展望を職員と一緒に背負って、その時を迎えさせてあげたいと思っています。

来年度も、私の担当児童が一人、卒園を迎えます。彼の希望は、大学進学です。中学2年の時か

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

らの5年計画の最終年です。何としても2人で目標実現をします。頑張ります。

卒園式

3月21日に円福寺愛育園 卒園式が執り行われました。新型コロナウイルスの影響で多くの来賓の皆様、ご支援いただいた地域の皆様、学校の先生方をお呼びすることは叶いませんでしたが、それでも、無事、卒園児童3名の卒園式を迎えられたことにほっとしています。園の職員、児童のみの式だったので、笑いあり、涙ありのとてもアットホームな式に感じました。

今回の卒園児童の中に、私の担当の子がいます。彼の担当になったのは去年の6月でした。卒園までは残り9か月しかなく、自分が卒園生を見れるのか、何も分からない状態で、とても不安でした。彼は野球部に所属しており、最初は関係作りだと考え、彼の試合に何度も通いました。進路の選択になった時、彼の性格上、「何とかなるでしょ」「ここの大学行ってみたい、ここ都会で楽しそう」と常に楽観的で、マイペースでした。そこをなんとか正そうと話をしても、自分の思い通りにならない事があると、現実から目を背けようとして、悪態をついてみたり、好き勝手なことを言ってみたりと、こちらを振り回すことばかりでした。それでもホームの先生方にたくさん助けていただき、何とか進路も決まり、無事卒園式を迎えることが出来ました。卒園式で私は泣いてしまいました。絶対に泣かないだろう、たった9ヶ月担当になっただけ、泣くはずがないと思っていました。それでも彼との時間は自分自身が成長する、かけがえのない時間だったなと思い、自然と涙が出ました。彼が大人になるにはまだまだです。これからの彼の笑顔が途切れることの無いことを願います。

卒園式の準備は、男の子達が率先してやってくれました。女の子たちも装飾や看板の文字などとてもきれいに、そして丁寧にやってくれました。卒園という新たな人生のスタートを全員で応援し、祝い、背中を押してあげられる愛育園は、とても暖かい場所だなと感じました。

在園生代表の言葉 あおぞらホーム



R君、Rさん、ご卒園おめでとうございます。R君と僕は4年間一緒に生活してきました。たくさんの思い出ありますが、その中でも1番印象に残っているのが、愛育園祭の開催宣言などでの、堂々とした姿です。

よく「フルフォース」と叫んでいましたよね。その時知らなかったのですが、キョトンとしていましたが、後で意味を調べたら、「全力」という意味だったんですね。

あおぞらホーム 倉島誠



(令和2年4月10日発行 月刊「円福」475号付録)

今思い返してみると、野球に一生懸命取り組む姿や、園の行事を思い切り楽しんでいたR君を表すピッタリの言葉な気がします。これからも大変なことがたくさんあると思いますが、R君の前向きさがあれば、どんなことも乗り越えていけると思っています。頑張ってください。

4月から僕も高校3年生になります。僕もR君と同じように進学を目指しています。北海道大学や筑波大学が僕の目標ですが、まだ全然実力が足りません。それなのに、気分のむらが激しくて、悪い時は、集中力が長く続きません。僕がここに来てからずっと、心の弱さを指摘されていますが、それが克服できずにいます。目標を達成するには、そこを克服しなければいけないと思っています。だから、4月からの1年間は、一途になって、目標を達成できるように頑張ろうと思っています。

今日でお別れとなるのはとても寂しいですが、今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。本日は本当におめでとうございます。

令和2年3月21日あおぞらホーム児童代表 M

在園生代表の言葉 まごころホーム

まず始めに、Rさん、R君ご卒園おめでとうございます。

2人が卒園するというので、どんな姿が印象に残っているか思い返してみました。

まずはR君。小学生の時からずっと野球を続けていることがすごいと思いました。練習が大変だったり、監督やコーチから厳しいことを言われて部活を辞めたいと思ったこともあったのではないかと思います。

特に高校に入ってから、園にいる所を見かけるのが珍しく思えるくらいに、毎日野球の練習に一生懸命でしたね。3年間、頑張ったからこそ最後の試合では、ヒットを打つことができたのではないかと思います。

次にRさん、同じホームだったので楽しく話したり、行事を一緒に作り上げたりとたくさんの思い出があります。その中でRさんの良い所を知ることが出来ました。

特に印象に残っているのは、人の為に率先して動いている所です。例えば、そうじの時にいない人がいるとその人の分担場所も一緒にそうじしてくれていました。また、どの行事の時も嫌な顔1つせず、準備や片付けを率先してやってくれていました。そんな姿を見て、「すごいなー」と思うと同時に私自身まだ面倒がってしまう所があるけど、これからはRさんの姿を見習って率先して動いていきたいと思いました。

私もあと2年後には卒園になります。私の将来の夢は保育士になることなので短大に進学したいと思っています。その



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

ために今、成績上位を目指したり、バイトでコミュニケーションやマナーを学んだりと将来のために頑張っています。まだわからないことばかりですが、2人のように最後まで自分のために頑張りたいです。

最後に、愛育園での生活では先生達に助けられていた部分がたくさんあったと思います。ですが、明日からは本当に自力で生活しないとイケません。大変なこともあると思いますが、そんな時は愛育園のみんなのことを思いだして頑張ってください。応援しています。

令和2年3月21日 まごころホーム児童代表 T

お別れ夕食会

あおぞらホーム 石龍成己

3月15日、食堂にてお別れ夕食会を催しました。例年ですと、外のお店に行き、バイキング形式で催していましたが、今回はコロナウイルス感染予防の為、中止の方針で決まっていたが、園長先生よりご配慮頂き、食堂にてケータリングの形で、ミールマーマさんに来て頂き催しました。当日、在園の中高生に会場設営や、飾りつけをお願いし、卒園生の為にみんなが積極的に動き準備をしました。食べ物としては見た目カラフルで、色んな味のするトースト、ハンバーグ、カレー、ピザ、鳥の照り焼き、ローストビーフ、サラダ、パスタ、唐揚げ、デザート、ポテト等々、子ども達に人気のある食べ物をバイキング形式に用意してもらいました。量もみんなにおかわりがいきわたるよう、沢山用意してもらいました。また、調理の先生方からは、ホットプレートとクレープの木の素を用意してもらい、バイキング形式でクレープを作れるよう準備してもらいました。本当に、お店に行っているような気分で夕食を楽しむことが出来ました。



例年ですと、他のお客さんもいますので、卒園生の話す機会はありませんでしたが、食事中、在園生職員に向け話をしてくれました。卒園式前に、思い出話をする事ができ、とても優意義な時間となりました。

お別れ夕食会 あおぞら 児童感想

おわかれ会

3月15日 日曜日におわかれ会をしました。さい初いろのパンがありました。むらさきときいろとみどりといっぱいありました。つぎにデザートを食べました。さい初のデザートはアイスを食べました。そのつぎに自分でくれーぷを作りました。Hくんが「だれかうらがえして」っていったからぼくがうらがえしました。さいごにおなかいっぱいになりました。

(令和2年4月10日発行 月刊「円福」475号付録)

(小2・T君)

お別れ夕食会

始めにミールマーマの人たち、お別れ夕食会のじゅんぴをしていただきありがとうございました。たべたときは心でおいしいとさげんでしまいました。デザートホットケーキはきれいにうらがえしたのでミールマーマさんたちに見せたかったです。本当に上手で、初めてで上手で、食堂の先生に「上手だね」と言われてうれしかったです。お肉をは食べたらいいてあって、サラダを食べたらおいしくてぼくは心で思いました。ミールマーマの人たちがつくったりようりはおいしいんだーと思えました。アイスは食べた中で一番つめたかったです。今回はありがとうございました。またきてください。本当にありがとうございました。

(小3・S君)

お別れ夕食会 まごころ 児童感想



3月15日におわかれ夕食会がありました。本当は外で食べるよていでしたが、コロナウイルスのため、夕食会は園の食堂でやりました。そして、外から園にミールマーマの人たちに来てもらい、料理を作ってくれました。見てみるとたくさんの料理がならんでいてとてもおいしそうでした。食べてみると、どれもおいしくてお腹いっぱいになりました。感謝して食べれたのでよかったです。最後に、卒園生がおわかれの言葉

を一言いっていました。

来年も、ちゃんとおくり出せるおわかれ夕食会にできたらいいです。

(小6・Rさん)

3月15日はお別れ夕食会でした。お別れ夕食会のご飯はミールマーマの人たちに作ってもらいました。料理の中には大好きな唐揚げやポテト、パンがあってうれしかったです。ご飯の席はSちゃんと石崎先生とでした。卒園生の話のとき、卒園したら悲しいなと思ったけど同時に、頑張っしてほしいなとも思いました。その後も、デザートとかいっぱいあったのでお腹いっぱい食べました。すごくおいしかったです。



(中2・Aさん)

円福寺愛育園小年少女野球団卒団式

まごころホーム 橋本雅

3月29日に円福寺愛育園小年少女野球団の卒団式が行われました。4月に発足式を行い、2年生

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

1名・3年生4名・4年生3名・5年生3名・6年生4名の15名の選手で取り組んできました。あっという間に1年間が過ぎてしまいましたが、選手1人1人がとても成長した1年だったと思います。

卒団式では、監督やコーチから挨拶をして頂き、卒団生にみんなからのメッセージや写真立て、シャーペンをプレゼントしました。そして卒団生より挨拶して頂きました。それぞれが野球を通して学んだことを堂々と発表してくれました。さすが6年生立派だなと感じました。円福寺愛育園少年少女野球団で学んだことを生かし中学生になっても頑張してほしいです。5年生以下は、1年間で学んだことを生かしてさらに成長できるように頑張してほしいです。今年度もチーム一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。



卒団式 児童感想

3月29日日曜日そつだんしきがありました。その次6年生にアルバムをわたしました。スライドを見ました。見たのは、やきゅうです。さいごに紙になにかをかきました。プリンのおしるいが4こありました。ぼくがえらんだやつはミックスです。あとおべんとうもえらんでミックスとおべんとうをたべました。

(小2・T君)

卒団式

3月29日に卒団式がありました。いままでは、自分たちが送る側だったけど今年はぼくたちが送られる番でした。まず、日詰コーチに写真立てをもらいました。ぼくは金色のカバーでした。とてもうれしかったです。次にチームから色紙と、めざまし時計、名前付きのシャーペンをもらいました。中学に行っても役立つものだったのでうれしかったです。ぼくは、来年から中学生になります。ぼくは中学生になっても野球をやろうと思っています。中学へ行っても頑張りたいです。

(小6・Y君)

卒団式

3月29日に少年野球の卒団式がありました。スライドショーがあつて楽しかったです。おいしいごはんやゼリーがあつておいしかったです。6年生はもう中学生になります。6年生のみなさん中学校でもがんばってください。ぼくもつぎは6年生だから勉強をがんばりたいです。少年野球ではキ

(令和2年4月10日発行 月刊「円福」475号付録)

ャプテンになりたいです。チームときょうりよくしてゆうしょうしたいです。だからコーチからよくきいてがんばりたいです。

(小5・R君)

そつだん式

小3 S君

今日はそつだん式がありました。ぼくはお兄ちゃんに、きねんひんをわたしました。その後スライドを見たときに円福はいいお兄ちゃんがゆうしょうしたときのお兄ちゃんにだっこされていました。Yくんとは、3年かんいっしょにやってきました。キャプテンとしてチームをまとめてくれてありがとうございました。S君とは半年やってきました。中学に行ったら陸上部に入るんだね。がんばってください。そつだんおめでとう。

(小3・S君)

卒団式

今日、卒団式がありました。ぼくは卒団生です。まず最初は日詰コーチの話で写真をもらいました。そのあとに記念品をもらいました。中身は、名前がほつてあるシャーペンと写真立てつきめざまし時計とみんなが書いてくれた色紙です。その後に卒団生あいさつでぼくはきんちょうして声が小さくなってしまいました。その後に卒団生のみんなの一年をふり返つてのスライドがありました。その後は、愛育園の子たちでおべんとうをたべました。おいしかったです。

(小6・S君)

あおぞらホームだより

あおぞらホーム 山田忍

雪が少なく、雪遊びが出来ないまま冬が終わってしまいました。

3月になり休校や春休みでいつもと違う春を迎えようとしています。そんな中、小学校6年生、中学校3年生、高校3年生達は無事学校での卒業式を終えることが出来ました。小学校6年生が中学校の制服に袖を通し卒業式に出る姿はどの子もお兄さんらしくキリリとしていました。そして高校3年生はいよいよこの愛育園も卒園していきます。

それぞれ決めた道に向かってこれからが人生で本当のスタートになります。同じ事の繰り返しなら何も変わらず楽ですが、何かを始める時は不安でいっぱいです。しかし、そこを一步踏み出す事の積み重ねで人は成長していくと思います。その勇気を持って愛育園で過ごした日々を自信に変えていってほしいと思います。



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

園の子達も4月から新しい学校へ入学したり学年が上がり少しずつ成長しているんだなと感じます。一年を振り返り通知表に段々◎が増えていくのを見てうれしく思います。中学に上がる子も「部活、何入ろう」「友達沢山つくる」と言ってとても希望に満ちています。

そんな子どもたちの隣に居続ける為にも自分も少しずつ変わっていかねばならないと思います、子ども達と共に成長していきたいと感じています。

まごころホーム日より

まごころホーム 加藤ゆかり

春風の心地良い季節となりました。令和2年度のまごころホームは児童15名、職員7名でスタートしました。この春、小学校・中学校入学を控えている児童は3名います。3人とも、新しい学用品を準備して、「早く学校に行きたい!」ととてもワクワクしています。コロナウイルスの影響で約1か月の休みが続いているので、子ども達みんな学校に行ける日をすごく楽しみにしています。無事に学校が始まり、毎日元気に登校出来る日が来るといいな、と思います。

昨年度末には、令和2年度の抱負を子ども達1人1人書きました。勉強のことや挨拶のこと、掃除のことなど、それぞれが本当によく書けていました。1年間目標をきちんと心に留めて、3月には目標を達成して成長した子ども達が見られるといいな、と思います。職員自身も、子ども達の真摯な姿を見習って、初心を忘れず、子ども達と一緒に成長出来る1年にしていきたいです。

調理室日より

調理員 加藤のぶ子

国より休校要請がありました。

友達といること、学校に行けること、昨日まで当たり前だったことが当たり前でなくなり、普通の日常が幸せなのだと感じます。

子供たちはいろいろ工夫してもらい、おやつを持って公園や山へ行ったりして過ごしているので、皆元気です。



3月2日☆ひなまつりMENU☆

三色いなり、あさりの潮汁、ひなまつりデザート

3日☆Rさん誕生日MENU☆

たらこスパゲッティ、鶏の唐揚げ、ポテトサラダ、チョコレートケーキ
夢はイルカの調教師です。|

9日☆受験応援MENU☆

ご飯、とんかつ、マカロニサラダ、いちご

12日☆卒園お祝いMENU☆

(令和2年4月10日発行 月刊「円福」475号付録)

とろろご飯、天ぷら、白菜の切り漬け、チーズケーキ

13日☆ホーム食☆ やしろうま作り

15日🌸お別れ夕食会🌸

今年度はケイタリングをしていただきました。サラダ、メイン料理、デザート

たくさんの品揃えでにぎやかで楽しくおなかいっぱいです。

17日☆A君誕生日MENU☆

オムライス、カリカリポテト、さけチーサラダ、どら焼き

18日お彼岸特別おやつ

あんこ、くるみ、ごまの三色おはぎです。

19日☆S君誕生日MENU☆

ざるそば、唐揚げ、シーザーサラダ、桃パフェ
夢はプロ棋士です。

20日お彼岸団子作り

21日卒園式

かつ玄さんよりお弁当をいただきました。

22日☆園長先生誕生日MENU☆

手打ちそば、天ぷら、ほうれん草のお浸し、フルーツinゼリー

